

野鳥を詠む俳句 結果発表

7月1日から9月17日まで募集した「野鳥を詠む俳句」には、285名の方から合計770句の投句がありました。(公社)日本伝統俳句協会の田丸千種先生と日本鳥類保護連盟が選考しました最優秀賞1点と優秀賞10点を発表いたします。

最優秀賞

大の字で仰ぐ大空雨燕

國本秀山

【講】悠然と空を飛ぶ雨燕。作者も空に身をゆだね、雨燕と一体化するよう。

優秀賞

小鳥来る耳豊かなる石仏

野口緑風

【講】野仏の「耳」に着目。季節が野辺の明るさを感じさせます。

鳴きやみて夜鷹の気配いよ濃く 大川すまき

【講】見えにくい夜鷹を「気配」で感じている繊細さが光ります。

幹叩く音溶けゆきて夏の霧

川辺 留不

【講】啄木鳥の音が霧に巻かれてうすれてゆく。夏の霧らしさが出ています。

福良雀枝に群がるオカメ顔

うづき

【講】「オカメ顔」が秀逸。ふくら雀の可愛さ倍増です。

初燕ディーゼル車来る木の駅舎

昭彦

【講】今もディーゼル車が来る駅舎。そんな燕先? で初燕に遭遇した喜びが伝わります。

筒鳥のまた遠くなる修験道

ひかる

【講】聞こえたかと思うとまた遠ざかる。「修験道」が山の深さを物語ります。

摩天楼フクロウ潜むビル灯り

白川 譽

【講】現代の情景。無機質な都会に棲むフクロウが詠まれ、詩的な一句となっています。

オオルリの止まりて梢輝さぬ

遊泉

【講】瑠璃色鮮やかなオオルリ。枝ごと光を放つ姿が見えるようです。

愛鳥の週や有給つかい切

鳥リソグ

【講】愛鳥家ならではの、さっと惜しくはない有給休暇の使い方がうまい。

餌台に見知らぬ鳥や冬日和

羽住玄冬

【講】よく晴れた朝にいつもと違う鳥が来る。「冬日和」が効いています。

講評：(公社)日本伝統俳句協会 田丸千種先生

残念ながら11点に選ばれなかった句の中にも野鳥を楽しむ情景が浮かび上がる素晴らしい俳句がありました! たくさんのご応募ありがとうございました。